

事業実績書

令和7年11月4日

団体名 Yuj marche

事業の目的 （何のために行う事業なのかなど、事業の趣旨や目的を記入してください。）	綾部を中心とする子どもたちに、近隣では経験できない子ども縁日やワークショップ・ハロウィン仮装などの体験を楽しんでもらうことで、子ども主体の”チャレンジする機会、”子どもの自己実現”を叶える機会を作りたいです。また、例えばひとり親家庭など困窮している世帯にも安心して楽しんでもいただけるよう、無料コーナーも多く設置したいと思っています。他にも、周辺の企業や飲食店にも出店いただき地元の活性化と、綾部の良さを市外にもPRする機会とし、ごみの持ち帰りやお箸お皿の持参を呼びかけ地域の自然環境の保全などにも繋がりたいです。
事業の名称	ハロハロハロウィン
事業費 （市補助金）	352,386円 （168,000円）
補助金の使途 （団体活動のどんな事業経費に補助金が充当されるか記入してください。）	地図製作費、デザイン費、謝礼、新聞折込、会場費、カメラマン、駐車場誘導、消耗品等
事業実施期日	令和7年10月5日（日）
事業実施場所	里山ねっと・あやべ
事業の概要 （事業の実施方法、内容について記入してください。）	本事業では、地域の子どもと保護者が安心して参加でき、かつ「綾部にぜひ足を運びたい」と思ってもらえる魅力あるハロウィンイベントの開催を目指しました。会場内では、ハロウィン仮装やベビー&キッズ仮装ランウェイ、太鼓演奏、子どもが主体となって楽しめる縁日、専門家によるワークショップ、綾部市周辺から出店するキッチンカー等の飲食ブースを展開し、多様な世代が参加しやすいイベント構成としました。屋外の芝生スペースでは、太鼓演奏のステージや、仮装ランウェイを体験できるエリアを設け、広い屋外空間を活かしたにぎわいの創出を図りました。別棟には保育スタッフによる託児スペースを設置し、パパ・ママがひとときの息抜きをしたり、兄弟児それぞれに向き合う時間を取ったりできるよう配慮しました。また、イベント全体の様子はカメラマンによって記録し、保護者の目線では撮影しづらい「親子で写る思い出の写真」として残せるよう工夫しました。写真データは、来場者の満足度向上や広報効果の向上につながることを期待しています。さらに、本事業では補助金を活用することで、ひとり親世帯など金銭的な理由からお祭りやマルシェに参加しづらい家庭に対しても参加のハードルを下げ、誰もが気軽に思い出づくりに参加できる地域イベン

	トとなるよう努めました。地域全体の子育て支援や交流促進の観点からも、大きな意義を持つ事業であると考えています。 【参加者：約600名】
補助金の成果 (計画書では期待できる効果を、実績書では得られた成果を記入してください。)	・集客数について 当初の集客目標は900名でしたが、当日は大雨であったため、来場者数は約550～600名となりました。入口受付にてリストバンドと協賛品プレゼントを引き換える方式でカウントを行いましたが、リストバンドを受け取らず入場した方も一定数おられたため、実際の来場者はこれより多いと推測されます。 ・会場および駐車場運営について 駐車場が会場から離れているため不便が懸念されましたが、交通整理スタッフの協力により大きな混乱なく運用できました。広い駐車スペースに効率よく駐車誘導ができ、来場者の安全確保にもつながりました。 ・広報活動の成果について SNSのみでは周知が限定的であるため、出店者への告知依頼、近隣店舗へのチラシ設置、京都新聞・あやべ市民新聞での紙面告知（無料）、綾部市内全戸の朝日新聞折込および一部京都新聞・毎日新聞への折込チラシなど、多方面から情報発信を行いました。 また、チラシデザイン・SNS運営については、専門会社に依頼すると高額になるため、個人クリエイターへ依頼することでコスト削減を実現しました。 ・催しの評価（仮装ランウェイ等） 特に「仮装ランウェイ」は大変好評で、本企画を目的に来場された方も多く、イベント全体の盛り上がりにつながりました。仮装した子どもたち・保護者、そしてレンタルした着ぐるみ(うさぎ)による視覚的な賑わいが、会場の活気を高める結果となりました。 ・スタッフ体制の工夫 スタッフTシャツを作成したことで、来場者からスタッフが認識されやすく、問い合わせ対応や会場案内が円滑に進みました。安全面・運営面で効果が高かったです。 ・ステージ企画の集客効果 太鼓演奏、パネルシアター、英語絵本の読み聞かせなど、出演者の皆様にも宣伝協力いただいた結果、多くの参加者を集めることができました。出演者へ報酬をお渡しできたことは良かったものの、可能であればもう少しお支払いしたかったという反省もあります。 ・記録写真の活用について カメラマンによる撮影により、会場の雰囲気や来場者の表情を丁寧に記録することができ、今後の広報素材としても活用できます。一方で、支出が大きかったため、次回はコストを抑えられる選択肢も検討すべきと感じました。 ・託児サービスについて 託児利用は少なく収入にはつながりませんでしたが、チラシ配布時に「託児サービスがある」という点は好意的に受け止められ、子育て家庭が安心して参加できるイベントとしての信頼向上に寄与したと考えます。

様式第4号（第3条、第7条及び第8条関係）

収支予算書（計算書）

令和7年11月4日

団体名 Yuj marche

（単位 円）

収 入 の 部	区 分	予算額	収入済額	明 細
	市補助金	168,000	168,000	
	出店料	82,000	82,000	
	自己資金	12,636	12,636	
	パネルシアター	6,250	6,250	
	協賛金	36,000	36,000	
	託児	900	900	
	ランウェイ	8,000	8,000	
	縁日	38,600	38,600	
	合 計	352,386	352,386	
支 出 の 部	区 分	予算額	支出済額	明 細
	謝金	33,000	33,000	太鼓演奏、パネルシアター、絵本読み聞かせ外部講師
	広報	44,836	44,836	雑誌・新聞掲載費、新聞折込
	委託料	91,150	91,150	地図製作費、デザイン費、カメラマン、託児、駐車場誘導
	保険	0	0	
	消耗品	15,568	15,568	
	使用料	43,150	43,150	会場費
	熱中症対策	0	0	
	ボランティア	4,000	4,000	旅費見合い謝礼
	着ぐるみ	20,350	20,350	
	振込手数料	869	869	
	対象外経費	99,463	99,463	Tシャツ作成等
	合 計	352,386	352,386	（うち対象経費 252,923 円）
差	引	0	0	